

令和2年10月20日

10月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では各地域で原木生産が再開された。しかしコロナ禍の影響により低価格が続いたことから皆伐を来年に持ち越した地区がある。このため間伐中心となり、原木生産はやや少な目である。入荷は日光・鹿沼地区は順調であるが、県北地区はやや低調。スギ、ヒノキ材とも引き合いの強い状態が続いている。スギ柱材・中目材、ヒノキ柱材が値上がり傾向にある。ヒノキ中目材も入札枚数が多く、引き合いは強い。

群馬では10月になり出材が徐々に増え、原木不足は緩和されつつあるが、製材工場の原木在庫はほぼ無い状況である。操業は通常の8割程度。受注は9月から増えているが、昨年並みには至っていない。製品市場向けは微増、ホームセンター向けは平年並み。製品在庫は少なく、羽柄材、構造材ともに増産を予定しているが、原木不足で振るわない。製品価格は多少の値戻しがあり、コロナ禍前の価格に戻りつつある。

2. 米材

カナダ私有林最大手のMOSAIC社の伐採は本格稼働までに時間を要しており、港頭在庫の低水準が続いている。米マツIS級並の対日輸出価格(推定)は10月積み\$910で3ヵ月連続の上昇となった。11月積みも上昇は確実視されている。米国では絶好調の製材品市況を背景として製材工場の原木集荷が活発化している中、9月のオレゴン州を中心とした山火事(現在は沈静化している)が原木価格の上昇を助長した。米国製材品価格は9月最終週に反落したものの、依然として歴史的な高値水準で推移している。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(9/25)は\$932/Mで9月頭に比べ0.7%下落。原木価格上昇に対する産地製材工場の許容度は飛躍的に上がっており、さらに山火事の影響も加わって産地原木価格の更なる上昇が予想される。また第4・四半期の対日向け製材品価格は各工場とも値上げで打診してきており、数量は通常の30%未満となっている。

8月原木入荷量は150千 m^3 弱、1~8月累計で1,256千 m^3 (前年同期比26.5%減)。カナダからの入荷が前年同期比75%減に対し、米国からは1.3%増となった。出荷量は151千 m^3 、1~8月累計で1,252千 m^3 (同25%減)。在庫量はほぼ横ばいの182千 m^3 、在庫率は1.14ヵ月。国内米マツ製材工場の稼働は15%

減程度で、想定していたほどの落ち込みは見られない。東京木材埠頭の9月入荷は14千 m^3 (前月比9.1%増)、出荷は16千 m^3 (同1.2%減)、在庫は29千 m^3 (同7.4%減)。国内最大手の米材製材工場が小角、割物を2,000~3,000円/ m^3 値上げした。

3. 南洋材

サラワク州では9月の降雨が非常に多く、各地で洪水が発生し原木生産は低調である。インドからの引き合いは増えているが、原木生産量が少ないため船のスペースが埋まらない状況。FOB価格も\$10~20/ m^3 程度上昇。PNGでも全地域の天候が悪く原木生産は低調。10月予想の原木入荷は8千 m^3 、出荷量は6千 m^3 、在庫量は21千 m^3 、製材用原木は造船・梱包用途の荷動き悪く、埠頭在庫水準が高くなっている。製材品入荷は32千 m^3 。

4. 北洋材

産地では、中国マーケットの回復、対日向け引き合い増加で雰囲気は一転し、底値を脱したものと見られる。原木は依然夏伐り材を消化中で冬伐りまでには最低1ヵ月はかかる模様。中国向け原木価格は市場の回復を受けて前月比\$3~5/ m^3 の値上げだが、荷動き自体はそれほど増えていない。一方、国内では東京木材埠頭のアカマツ完成品の在庫減少により、先行きの入荷不安から手当ての動きが見られる。国内メーカーはコロナ禍の値下げ玉を手配済みであるが、未だ高コストの原板在庫を抱えており苦戦している。一般ルートに回復の兆しが見られるが、DIY向けの数量が伸びていない。10月予想の原木入荷・出荷量とも1千 m^3 、在庫量は14.5千 m^3 。製品は入荷量(東京+川崎)10千 m^3 、出荷量20千 m^3 、在庫量49千 m^3 。東京木材埠頭の製品在庫は本格的に減少し始めたが、川崎は未だピークで減少傾向が見られない。

5. 合板

合板用の国産材原木はメーカーの減産体制が続いており、入荷は減少している。価格は今のところ弱含みとなっている。ロシア材は弱含み推移であるが、殆ど入荷していない。米材は一部で山火事が起きているが、大きな変化はない。南洋材は現地悪天候であるが、今のところ大きな問題はない。

8月の国内合板生産量は21.5万 m^3 、うち針葉樹合板は20.8万 m^3 、出荷量は21.8万 m^3 で、在庫量は14.9万 m^3 となり、うち構造用合板の在庫は12.5万 m^3 と減少が続いている。針葉樹合板は9月末に引き合いが出始め、各メーカーの減産効果で在庫量が減少し、タイト感があるため、多少値戻していく可能性もある。輸入合板は入港量、需要も少なく、落ち着いた状況のままで価格

は横ばいで推移している。8月合板輸入量は16.2万m³と少ない。マレーシア、インドネシア産とも7月より多いものの依然少ない。インドネシアでは悪天候により一部地域で原木供給に支障が出ている。日本向けは低調だが、北米向けが好調で工場の操業は一定レベルを維持している。マレーシアは天候が悪く洪水地域もあり、出材が困難になっている。受注が少なく低調な状況のまま大きな変化はない。

6. 構造用集成材

9月のラミナ入荷は現地メーカーの夏期休暇の影響により、通常に比べやや少ない。10月にかけても現地の夏休みの影響が出るだろう。国内メーカーでは年末にかけて仕入れを絞っているところもある。第3・四半期の契約分は第2・四半期価格より円安が進行しているため、輸入コストが上昇している。第4・四半期交渉が始まっているが、北米での需要拡大の影響もあり、値上げの交渉が進んでいる。輸入集成材の第4・四半期交渉は国内需要の読みづらさ、現地の値上げ意向により長引いている。前回比10~15ユーロ/m³程の値上げの模様。輸入集成材の入港量は8月をピークに年末にかけて減少すると見込まれる。

7. 木材チップ

チップ原木は市況悪化で出し渋り傾向にあったが、徐々に復旧。解体材の入荷量は例年並みだが、冬場に向かってのタイト感が強い。製紙用チップの消費量は回復傾向にあるが、会社、工場毎にバラツキがある。燃料用チップの使用は増加傾向にある。原木、解体とも在庫のある工場と無い工場の二極化が著しい。

8. 市売問屋

天候は涼しくなってきたが、コロナ禍の影響で仕事が少ないせいか、荷動きは悪い。記念市の来客数も少ない。アカマツ等の値下げもあるが、安いから買うといった材木店も少なく、当用買いになっている。材木店、問屋ともに集荷、販売の苦労が続いている。

9. 小売

コロナ禍の影響が続いており、店舗、マンションの内装工事が再び止まり始め、停滞感から抜け出せない。スギ・ヒノキ構造材は需要が好転せず保合。WW柱、RW梁は需給バランスが取れており保合。米材は供給量少なく今後のコスト高が懸念されるが、需要は弱いままである。役物もスギの枠材が低調。注文材に対応する再割のできる特殊サイズに引き合いがある。集成フリー板が動き出した。針葉樹合板価格は底打ちしている状況だが、この先需要期に向けて値上がりする懸念がある。輸入合板は少しずつ動き始めた感がある。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和2年10月●日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	↘	→	↘
北洋材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	↘
南洋材	丸太	↘	↘	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸 入 量		
	計	インドネシア	マレーシア
↗	↗	↗	↗

3. 価格動向

樹材種	形 状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m)2等	↗
			スギ中丸太(3.65m)2等	↗
			ヒノキ柱材(3m)2等	↗
			ヒノキ中丸太(4m)2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD)10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	↗
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	↗
			米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	→
米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割(サバ州産)	→
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ(KD)30×40上級	↗
			アカマツ(KD)16×40上級	↗
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	→
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↗
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→